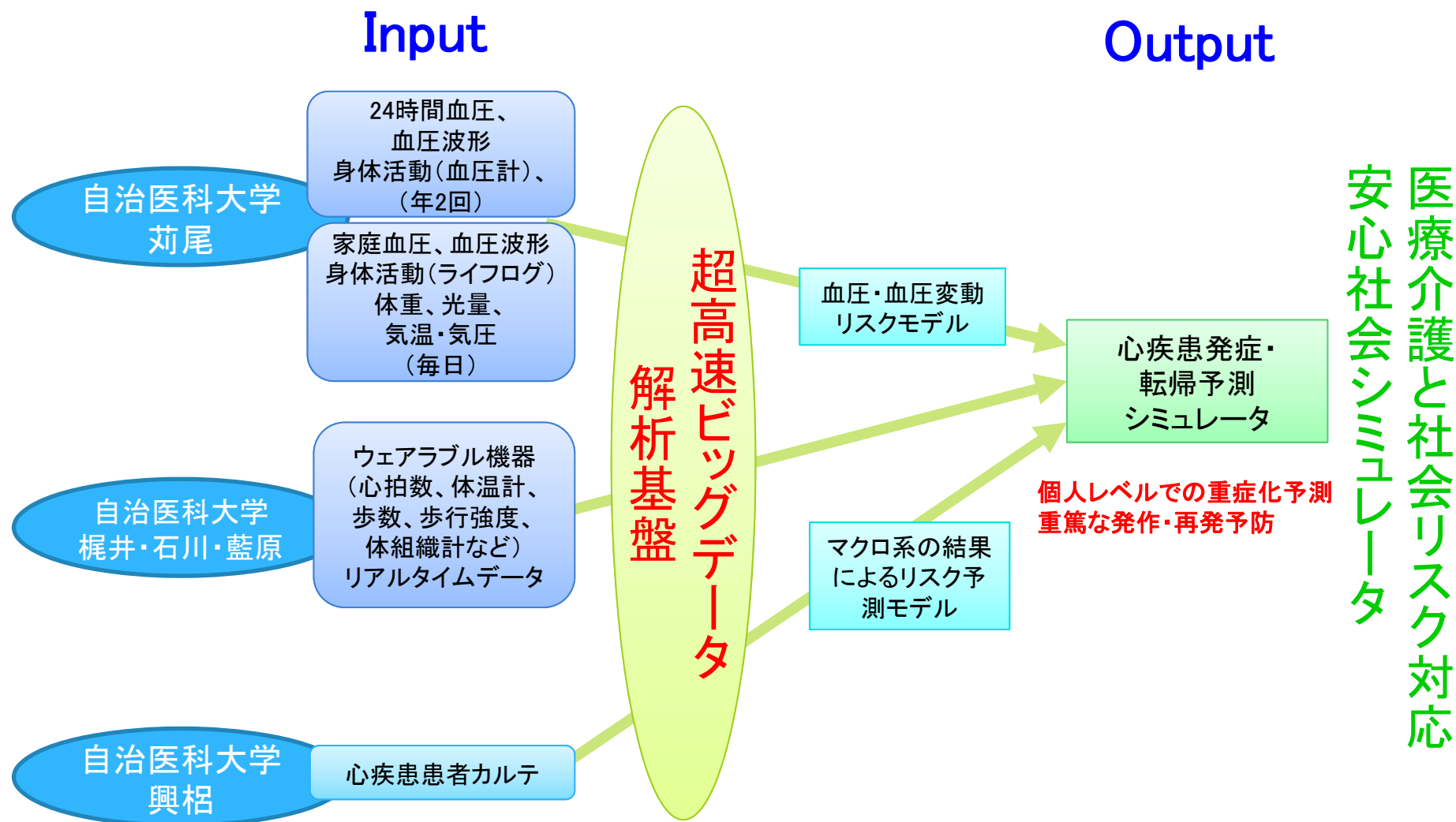


PL: 永井(自治医大)



リアルタイム医療データ収集の成果例(1/3) (自治医大 荻尾)

計画

- 1) 循環器疾患リスクシミュレータ開発
 - ・研究データベースシステムの構築・導入
 - ・新規ABPMの開発
 - ・ABPM解析用ソフトウェア作成
 - ・高精細な血圧波形を中心とした、研究データ収集 データ数および収集データ量
 - 2) 無線通信を用いたデータ収集法の確立
 - ・血圧データと共に収集するリスク要因の探索
 - ・情報収集デバイスを超ビッグデータ創出ドライバプロジェクトチームと共同開発
- ※ABPM (Ambulatory Blood Pressure Monitoring): 24時間自由行動下血圧測定

無線通信ネットワークにより、
超広域でビッグデータ収集

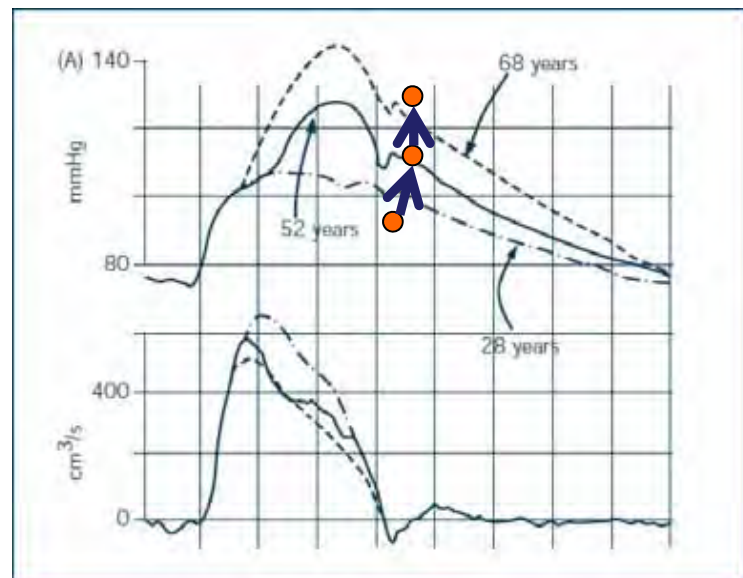
疾患の重症化前に変化を予見
タイムリーにリスク回避

日常生活に潜む
リスクを検出

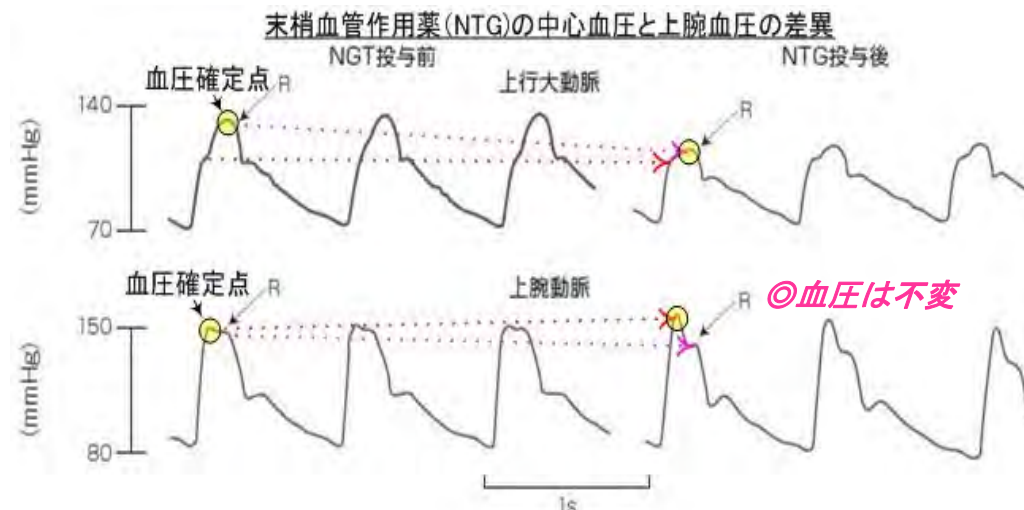
新規開発のABPM血圧計



血圧を中心とした予見先取医療

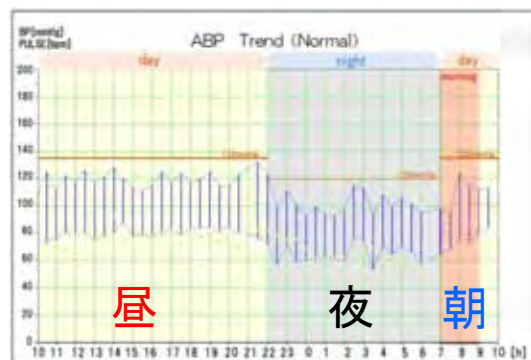


年齢別上行大動脈波形例(健常人)
反射波が年齢と共に増大する。



血圧波形測定の必要性—反射波の血圧

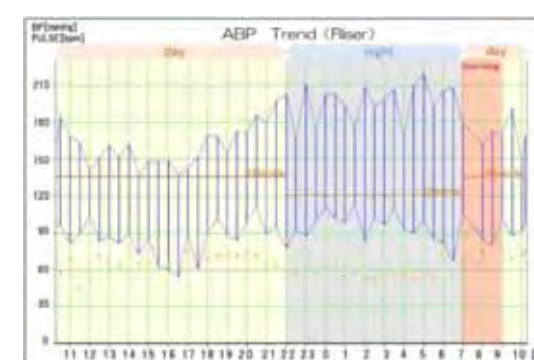
※投薬により、中心血圧では血圧が下がっているが、通常測定する上腕血圧のピーク(血圧確定点)では下がっていない。しかし、上腕血圧でも反射波(R)は下がっている



正常血圧



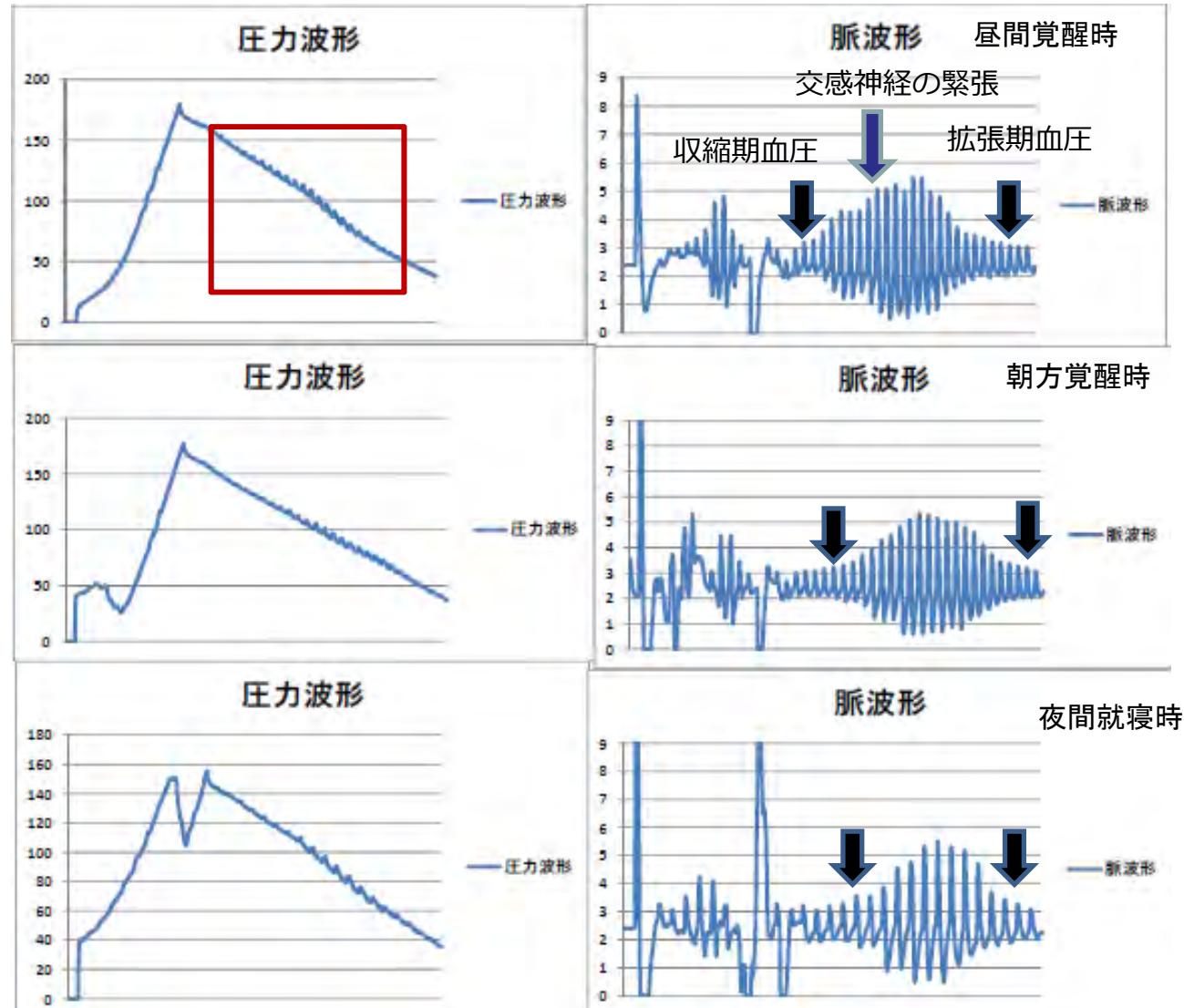
早朝高血(モーニングサージ)



夜間高血圧(ライザー)¹⁸

新しい血圧計で取得した血圧波形の1症例(73才男性)

身体活動・睡眠状態や環境因子と血圧変動との関連を解析



覚醒時は就寝中よりも血圧が高く、交感神経が緊張している。

キックオフミーティングを開催

9月12日にプロジェクトキックオフミーティングを開催し、300名近く参加

